

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	文京アートプロジェクト	作成日	2月6日
事業名	街じゅうボーダーレスアートミュージアム構想		
協働団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構(PARC) ・ 一般社団法人タップタップラボ、玉プロダクション ・ アカデミー推進課 ・ 区民課 ・ 区内障害者施設（リアン文京、若駒の里、槐の会〈は〜と・ピア、は〜と・ピア2〉） ・ 区内法人等（高橋工房、我楽田工房、HONGO22515、文京まちたいわ、ねづくりや、あいそめ） ・ 区内図書館、ミュージアム、大学等 		
自団体及び協働団体の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自団体：企画提案、進行管理、アート作品発掘・選定、展示プラン ・ PARC：コミュニケータによる鑑賞サポート・ワークショップの実施 ・ タップタップラボ：iPad貸与 ・ 玉プロダクション：設営 ・ アカデミー推進課：ギャラリーシビック提供、広報支援 ・ 区民課：Bーぐる及び区設掲示板へのポスター掲示 ・ 区内障害者施設：利用者作品の提供（作品の搬入出含む） ・ 区内法人等：ポスター掲示、及びPR協力 ・ 区内図書館、ミュージアム、大学等：ポスターの掲示 		
提案背景・目的	<p>(文京区の潜在的アート作品を展示することにより、区の魅力（文化的価値）向上に寄与するとともに、コロナ流行などによりストレスの多い区民の日常に潤いを与えることを目的として、本企画を提案しました。具体的には、文京シビックセンターの展示室での作品展示を軸として、作品テーマに沿ったワークショップの実施と、作品をより深く楽しんでいただくための対話型鑑賞の機会を盛り込んだ、イベント色の強い展覧会の開催です。</p> <p>伝統文化財を多数所有する環境に留まらず、地域で生まれた潜在的なアート作品に光をあてることで街にエネルギーを吹き込むことを目指し、区内障害者施設で生まれた作品に特化した展示提案をしました。</p> <p>より多くの方が文化芸術に触れる機会の創出を目指します。アート・コミュニケータが来場者に寄り添い、共に作品を鑑賞する対話型鑑賞機会の提供や、作品に関連したワークショップを加えることで、初心者やアート作品にさほど興味のない層を呼び込むきっかけづくりができますと考えます。</p> <p>本提案の背景には、代表の小松がここ数年携わっている区内障害者施設におけるアート活動をより多くの区民に知って欲しいと感じたことと、他区のアール・ブリュット関連プロジェクトに多数関わる中で障害者が生み出すアート作品が不特定多数の人に向けてもたやす価値を知ったことから、区内の地域活性につながる活動になると感じたことがあります。</p>		

	<p>また、過去2回のアートウォールシビックでのキュレーションや、一昨年春より「高橋工房・道のギャラリー」においてアール・ブリュット作品の展示を継続させていただいていることから手応えを感じていました。福祉業界からではなく、区の文化事業としてアール・ブリュット作品を発信することに意義を感じていました。ストレスの多い現代において地域に潤いをもたらすこと、そしてそれら作品群を媒介とした来場者同士の交流のきっかけ作りともなり得ます。区内障害者施設等で作られるアート作品を広く周知することにより、施設利用者と地域の接点も生まれます。</p>
<p>事業内容</p>	<p>区内障害者施設のアート作品を精選し、文京シビックセンター1階の展示室で作品展と併催のワークショップを開催しました。</p> <p>6月に会場の利用可能確認が取れた時点ですぐに区内障害者施設（10施設）に向けて作品提供を呼びかけました。ご協力の可否返答メ切を6月末とし、快諾された4施設と7月1日～9月20日の期間に3回のメ切を設けて作品データの授受を行いました。1回目メ切（7月末）に送られたデータからポスターに採用する作品を選定し、告知用のチラシとポスターをデザイン・作成しました。並行して施設職員の方には保護者へ著作権等の確認をお願いしました。複数回の打ち合わせと確認を繰り返し、9月20日にポスター12点の校了→印刷発注。10月5日にチラシ校了→印刷発注。10月12日に仕上がったポスターとチラシをアカデミー推進課に納品しました。ポスターは各区施設（図書館やアカデミー施設等）へ配布し掲示依頼したほか、開催前1週間には区設掲示板とBぐる車内へ掲示しました。</p> <p>10月10日～20日は、協力4施設へ出向き、ポスター配布と共に展示用作品の確認を行いました。</p> <p>作品を提供いただいたのは、は～と・ピア、は～と・ピア2、若駒の里、リアン文京の4施設。今回「模写」のテーマに取り組んでいたのはリアン文京のみでしたが、リアン文京の中でも「放課後等デイサービス」「生活介護」など複数グループからの参加がありました。</p> <p>10月下旬には全体の展示内容を固め、展示レイアウトを決めて、設営業者と打ち合わせを行いました。並行して、出展作品に沿ったワークショップの企画・必要パーツ等の準備、コミュニケーターのシフト作成にかかりました。</p> <p>作品展当日（11月2日～5日）は、NPO PARCの協力のもとアート・コミュニケーターを配置し、来場者と対話による鑑賞を随時行い、作品への理解を深めました。適宜ギャラリー周辺での呼びかけなども行い、4日間で400名を超える来場がありました。</p> <p>筆談用アプリを入れたiPadを使って、聞こえない方には筆談での対話型鑑賞も行いました。</p> <p>来場者に体験いただける場として、展示作品の一部に名画の模写を取り入れたことから、模写による缶バッジ作りのワークショップを行いました。各日50個限定とし、4日間で200人近い参加がありました。缶バッジを成果物とすることにより、作品が街に持ち出される効果もあり、「知人の作品を見て体験に来た」という方もいらっしゃいました。会場では参加者の成果物を画像に収め、モニターで掲示し、楽しんでいただきました。</p>

<p>協働団体 or 利用者の声</p>	<p>以下、アンケートの回答より一部抜粋</p> <p>【来場者】</p> <ul style="list-style-type: none">・すごく楽しめた。作品鑑賞の楽しみ方を教わった。再開催を強く願う。(複数回答)・他の方と一緒に作品を見ることで楽しさが倍増した。(複数回答)・溢れる才能、無限に思える集中力。・単なる展示ではなく愛とセンスのある展示だった。区内の他の所でも開催してほしい。(複数回答)・パワーあふれる作品に感動した。毎月でも毎日でも開催してほしい。(複数回答)・美術館にはよく行くが、今年で一番面白い作品展だった。・自由に思うままを表現していいのだと教えられ、創作意欲が湧いた。(複数回答)・初めて自分で絵を描いてみたいと思った。そのタイミングでWSコーナーがあるのは有り難かった。・カラフルで、表現のバリエーションも豊富で、楽しい作品展示だった。(複数回答)・きちんと芸術作品として評価していることが伝わる良い展示だった。マーケティングがつくといい。・お気に入りの作品のグッズを作ってほしい。(複数回答) <p>【施設職員】</p> <ul style="list-style-type: none">・実際に他の事業所の作品を見る良い機会になった。・利用者本人や保護者の喜びの声を直接聞くことが出来た・展示方法・構成・キャプションなど、いわゆる障害者の方の作品展的なものではなく、一般的な美術展示のようにとても丁寧で質の高い展示をしていただいたこと。・主催された文京アートプロジェクトのスタッフの方ひとりひとりが、アート自体またアールブリュットを好きなことが伝わってきた。・利用者、保護者の喜ぶ姿を見る事ができ、職員の作品作りのモチベーションにつながった。・展示だけではなく作品の鑑賞のしかたを教えていただける企画がいろいろあったことが良かった。・多くの人の目にふれる区役所に展示され、利用者の作品が世の中で表現出来ている実感がもてた。 <p>【アカデミー推進課】</p> <p>区の障害者芸術活動に対する支援の一環として、団体と協働して展示会を開催することができた。</p> <p>展示会では区民の鑑賞の対象にふさわしいものとして選ばれた作品が工夫を凝らした展示方法で飾られ、作品の制作過程や制作者の背景までが感じられる内容になっていた。区にはこういった障害者アートの展示会が実施されたことを喜ぶ声が寄せられている。</p> <p>展示作品の収集方法、選別基準、対話型鑑賞の実施方法、活動の展開など、今後の課題も見えてきた。</p>
-------------------------------------	---

協働による効果	<p>アカデミー推進課の協力により、ギャラリーシビックという恵まれた環境で展示を行うことができました。BunkyoBrutを知ってもらうために、区民の行き交う区役所で第1回目の開催ができたことはとても有意義でした。B-ぐるや区設掲示板にポスターを掲示できたことはもとより、区のHPやTwitter、区報、スクエアなど、区の広報手段を多方面に活用させていただき、区内の多くの方に周知できたこともありがたかったです。</p> <p>また、区内障害者施設の協力により展示作品を提供いただけたことで、充実した展覧会に仕上げることができました。展示数は220点に及びました。(額装したものと及び立体作品=90点、額装なしで展示した模写=34点、壁面に貼付したドローイング=90点、ガラスケースに積み上げたイラスト作品6束)</p> <p>作者(=施設利用者)やその家族が一般区民と交わる貴重な機会ともなり、開催後の作者の様子に変化が見られたという声もありました。</p> <p>さらに、NPO PARCの協力によりアートコミュニケータを配備したことで、来場者がより深く作品と関わる機会を作ることができました。</p>
成果目標の達成度	<p>4日間の開催中、400名を超える方に来場いただき、ワークショップには200名近い参加がありました。アンケート結果を見ると、乳児から80代まで幅広い層の方の来場があり(ボリューム層は20代~50代)、8割以上が「期待以上に楽しめた」と回答くださいました。作品鑑賞とワークショップを通じたアートコミュニケータの働きかけもあり、来場者各々の滞在時間も比較的長く、じっくり作品を鑑賞していただけたと感じます。</p> <p>「シビックセンター・ギャラリーでの展覧会を開催し、アートコミュニケータによる対話型鑑賞やワークショップも取り入れることで、様々な層の参加者に来場いただき、作品の感想などを共有する」という当初目標は概ね達成できたと感じています。SNSでの発信や口コミによって来場される様子も見られました。</p> <p>来場者アンケートや当日会場での聞き取りなどからは多くの感動や喜びの声をいただき、作品をグッズ展開してほしいという声も多く寄せられたことから、今後の可能性も感じています。</p> <p>また、「誰もが」芸術作品に触れられる機会を創出するという観点から、今回は展示作品の一部をそのままデザインに取り入れた告知ポスター(12デザイン)を作成し、区設掲示板(190ヶ所)やB-ぐる車内をはじめ区内各所に約350枚掲示し、作品の一端を楽しんでいただくこともできました。</p>
今後の活動予定	<p>作品を深く鑑賞する視点を持つこと、創作の楽しみを味わうことで、日常的に豊かな気持ちになれることを多くの人に知って欲しいと考え、我々団体は活動しています。今回の展覧会では、対話型鑑賞により作品の楽しみ方のアプローチと、ワークショップを取り入れることにより創作体験の提供(創作のハードルを下げる)ができました。こうした対面での取り組みは地道な活動ですが、機会を重ねながら浸透させていければと考えています。</p> <p>今回出品が叶わなかった施設にも次回はご縁をいただきながら、定期開催とシビックセンター以外の区内施設数カ所での循環展示による継続性を目指したいと考えています。図書館や施設から、展覧会のご希望の声もいただいておりますので、具体的に検討してまいります。</p>

将来的には、作品展会場での実施のみならず区内学校やフリースクールなどを対象とした出張鑑賞会の実施や、公募形式の展覧会開催なども視野に入れていきたいと思いを。また、展示作品をモチーフとしたブランディングに取り組み、雑貨などの商品開発に繋げていくという当初の願いも引き続き検討したいと思いを。

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ(10枚以内)

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：文京アートプロジェクト

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各施設へ企画提示&作品募集				●								
作品データ回収メ切①					●							
ポスター入稿						●						
作品データ回収メ切②						●						
作品リスト作成						●						
チラシ入稿							●					
展示レイアウト確定							●					
コミュニケーター向け説明会							●					
ワークショップ企画・準備							●					
ポスター・チラシ納品～配布							●					
展覧会開催								●				
関係者振り返りアンケート回収								●	●			
アンケート集計								●	●			
フミコム/関係課との会議	●	●		●	●	●	●		●			

* 列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙2：収支報告書

団体名：文京アートプロジェクト

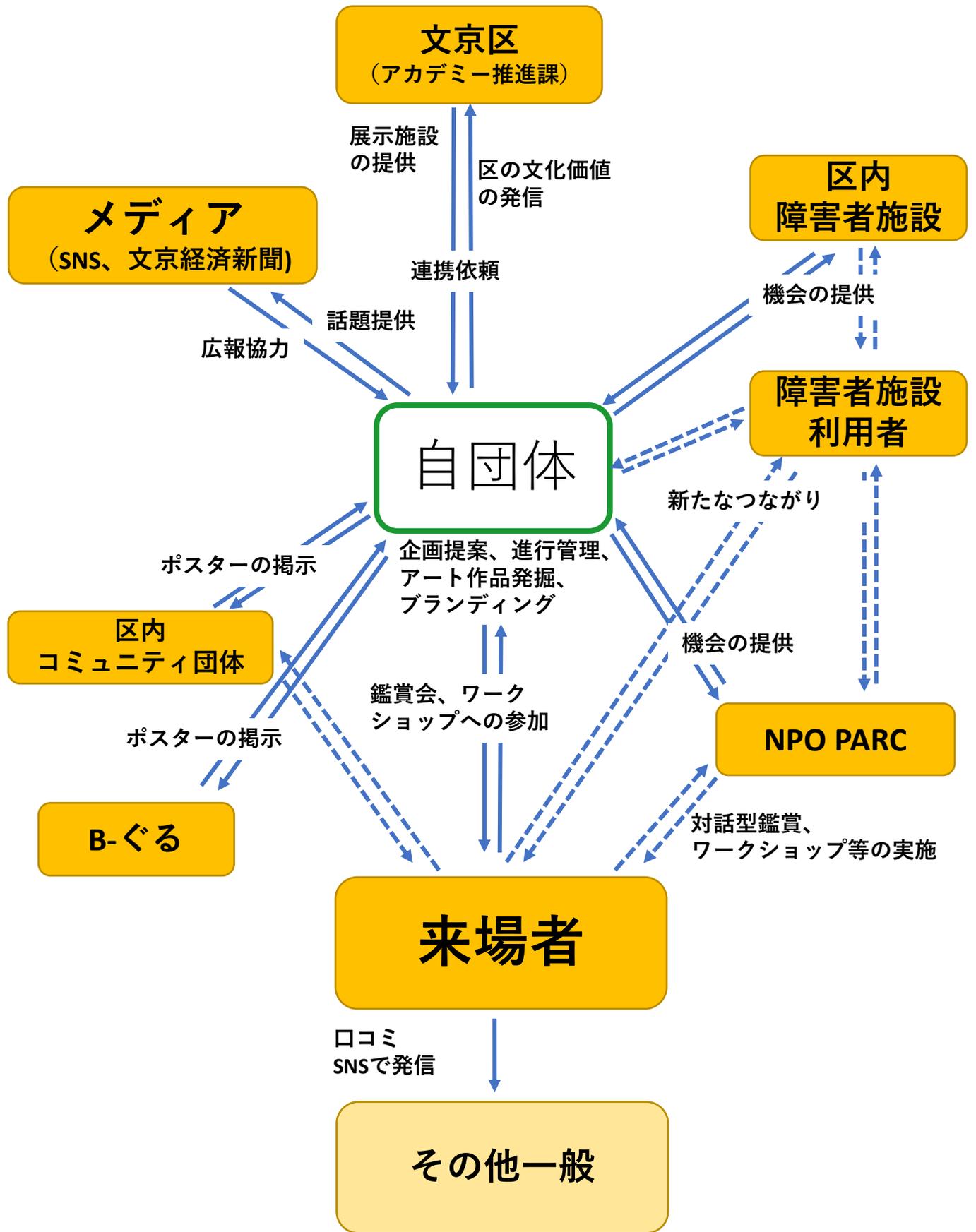
収入 628,071 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	621,000 円	新たなつながり部門助成額
	7,071 円	自己資金

支出 628,071 円

費目	予算額	積算根拠
デザイン費	120,000 円	B4ポスター12点、A2ポスター1点、A4両面チラシ、キャプション類
ポスター・チラシ印刷費	84,481 円	B4ポスター12種×30枚、A4両面チラシ1,700枚
パネル等掲示物作成費	42,762 円	カッティングシート：17200円 パネル：20762円、大判印刷：4800円
ワークショップ材料費	74,940 円	缶バッジマシン購入費：57800円 缶バッジパーツ200個：14460円、うちわ30個：2680円
設営委託費	55,000 円	2日（設営・撤去）
iPad使用料	12,000 円	3000円/3台×4日（筆談用）
コミュニケーター謝金	215,000 円	当日：5000円×10人×4日 前日準備：3000円×5人×1日
広報活動費・雑費	23,888 円	コピー代：3625円、郵送料：1690円、運搬費：9400円 ボランティア食事代：2000円×2人、筆記具等：5173円

別紙3：関係者マップ（報告版）



別紙3：関係者マップ（申請時）

